
自動車向け再生プラスチック市場構築のための 産官学コンソーシアム（第1回）の開催について

2024年12月13日

環境省 環境再生・資源循環局
総務課 資源循環ビジネス推進室

自動車向け再生プラスチック市場構築のための産官学コンソーシアムについて



- 欧州において自動車の再生プラスチック最低含有率（25%）の義務化等が盛り込まれたELV（廃自動車）規則案が提案されたことを受け、環境省において、経済産業省と連携し、産官学連携の下、我が国における戦略的対応を検討するためのコンソーシアムを11月20日に立ち上げ。
- 今年度2回（11月及び、2月又は3月）開催し、動静脈連携に基づく取組（設備投資や実証事業）の必要性やその実現に向けた国の支援策等について議論し、今年度内に「アクションプラン」を取りまとめる。

第1回会合（11月20日）の概要

【議題】

- 自動車向け再生プラスチックに関する現状について
- 自動車向け再生プラスチック市場構築のための課題とアクションプラン(案)について



静脈産業の目指す姿

高度選別技術、コンパウンド技術を向上させ、動脈産業へ安定的に再生材を供給し産業競争力を強化

動脈産業の目指す姿

リサイクル設計、再生材の使いこなし、ブランディング力を向上させ、グローバルな競争力を強化

動静脈連携

【再生材原料の量の確保】

自動車由来およびその他由来の再生原料の回収・リサイクル率を高める

【再生材の質の確保】

自動車向けに利用可能な再生材の品質を見極め、需給双方からすり合わせを図る

【再生材の市場拡大】

再生材の価値を社会に訴求し再生材の利用率を高める

産官学コンソーシアムの参画機関

カテゴリ	参画機関・参加者
自動車産業	一般社団法人日本自動車工業会
自動車部品産業	一般社団法人日本自動車部品工業会
プラスチック等 素材製造産業	日本プラスチック工業連盟
	一般社団法人日本化学工業協会
自動車解体業	一般社団法人日本自動車リサイクル機構
破砕業	一般社団法人日本鉄リサイクル工業会
プラスチック処理・ リサイクル業	全日本プラスチックリサイクル工業会
	日本プラスチック有効利用組合
	公益社団法人全国産業資源循環連合会
その他団体	一般社団法人プラスチック循環利用協会
有識者	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授 伊藤耕三
	公益財団法人京都高度技術研究所 副所長 酒井伸一
	東京大学大学院 工学系研究科 教授 村上進亮
	京都大学 環境安全保健機構環境管理部門 准教授 矢野順也
	神奈川大学 経済学部経済学科 教授 山本雅資
国	環境省環境再生・資源循環局総務課資源循環ビジネス推進室
	経済産業省 製造産業局自動車課、GXグループ資源循環経済課、製造産業局素材産業課

欧州ELV規則案と日本へのインパクト

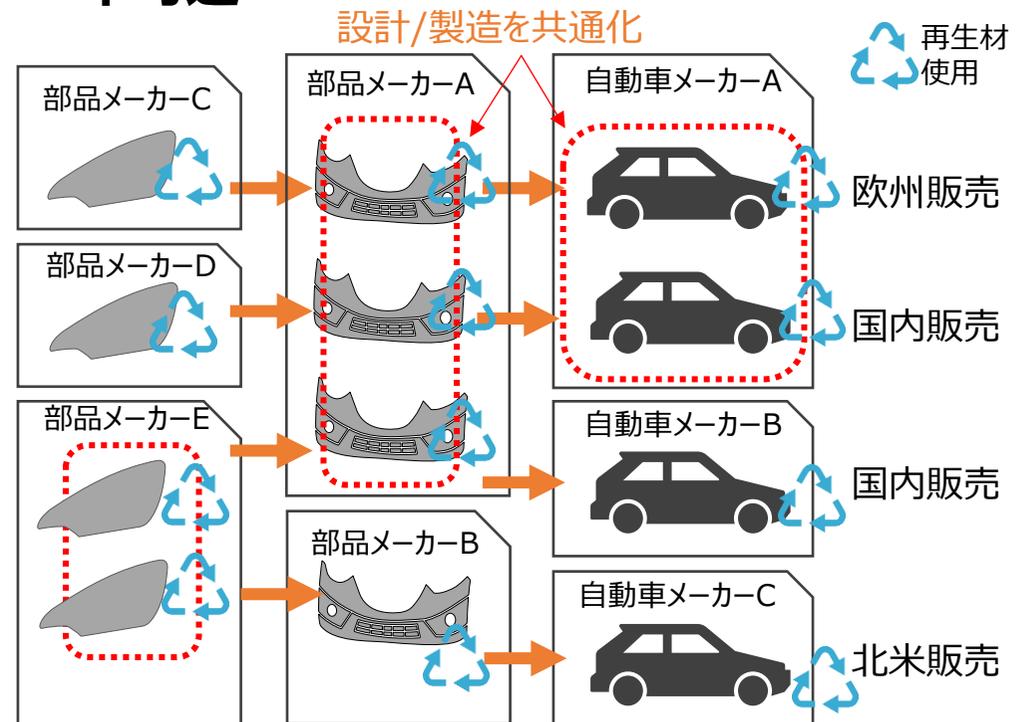
- 欧州が先行する規制の動き：自動車の再生プラスチック最低含有率の義務化等が盛り込まれたELV（廃自動車）規則案が提案され、日本の自動車産業への影響が懸念。

自動車設計の循環性要件及び廃自動車管理に関する規則（案）（欧州委員会）

- 2023年7月、欧州委員会は、現行のELV指令（End-of-Life Vehicle指令、廃自動車指令）等を改正し、新たなELV規則案を公表。
- 施行6年後から（欧州委員会の事前検討では2031年を想定）新車製造に**プラスチック再生材25%**（うち1/4はELV由来）の**適用義務化**。
- さらに、鉄鋼、次にアルミニウム、レアアース等へリサイクル義務対象が拡大される予定。

【日本へのインパクト】

- 設計/製造共通化や一括購買等により、再生材使用は**欧州向け以外の自動車も含めてサプライチェーン全体での対応が不可避**



問題の解決に向けた対応策について

			問題	解決に向けたアクションの方向性（案）		
				国	静脈産業	動脈産業
量	自動車由来	①	廃自動車の解体段階におけるプラスチック回収のインセンティブがない	解体コストとの兼ね合いでプラスチック回収における収益が低い 回収したプラスチックが高張る、運搬コストが高い 解体しづらい部品がある	制度の周知・課題分析 破碎機導入支援 精緻解体に関する実証等支援、リサイクル設計のあり方の検討	インセンティブ制度の周知とコンソーシアム形成 破碎機導入 精緻解体・リサイクル設計の実装
		②	ASRからのプラスチック回収率が低い・自動車向けのアップグレードが困難	ASR段階ではプラスチックが混合・汚れていてリサイクルに向かない	技術実証・設備導入支援	ASRからプラ回収率向上のための技術開発
	その他由来	③	廃プラの多くが混合・汚れていてリサイクルに向かない。再生材も品質が国内需要に見合わず輸出されている	リサイクルしやすい再生材原料がどこにまとまって存在するか不明 再生材原料についての排出時の分別ガイダンス・分別のインセンティブがない	マテリアルフロー分析・組成調査 排出時の分別の高度化について方策の検討	分別高度化と国内循環のための関係者を巻き込んだ場作りの検討
質	④		再生材はバージン材と比較して品質が低く、バラツキが大きい	再生材は、物性の劣化や臭いの問題、意匠に関わる着色などの問題がある 再生材の品質はバラツキが大きい	技術実証・設備導入支援	物性回復・脱臭・脱僕などの技術実証や設備導入
			⑤	物性保証・懸念化学物質規制への対応に向けた体制が不足	検査する設備の導入費用が高い 動静脈間の由来等情報の受け渡しの円滑化	分析装置の導入支援 トレーサビリティを確保するための情報流通プラットフォームの整備
市場	⑥		再生材の要求品質が動静脈間で見える化されておらず、再生材の需要が見通せない	再生材の需要量が不透明 再生材の要求品質が動静脈間で見える化されておらず、すり合わせが困難	動静脈間での技術実証支援、国産再生材の品質分析・需給マッチング方策の検討	業界目標の公表 動静脈連携間での要求品質のすり合わせ 使いこなし技術の向上
			⑦	再生材の価値の訴求が不十分	消費者における再生材品質への理解が不十分 環境負荷低減に関する評価手法がない	価値訴求の手法の検討 循環性指標の国際標準化の検討